

甲斐市議会 厚生文教常任委員会 会議録

1. 開催日時 令和7年10月20日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（8名）

委員長	清水和弘君	副委員長	保坂康君
	山本英君		依田那津希君
	加藤敬徳君		谷口和男君
	滝川美幸君		金丸寛君

欠席委員（なし）

傍聴議員（4名）

議長	秋山照雄君		山坂賢太君
	若尾彰子君		金丸幸司君

説明のため出席した者の職氏名

福祉部長	金子智奈美君	長寿推進課長	藤原布美君
長寿あんしん係長	齊藤綾野君	介護保険係長	川上恵美君
介護予防推進係長	中村美佐君		

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	中澤一昭	書記	深澤隼人
書記	圓谷孝宏		

内容

1 次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた基礎調査の実施について

(長寿推進課)

2 その他

開会 午後 1時27分

○書記（深澤隼人君） ご参集大変お疲れさまです。

ただいまから厚生文教常任委員会を開会いたします。

本日の委員会は、初めに委員長より挨拶をいただきまして、委員長の進行により進めてまいります。

次第の2、委員長挨拶、清水委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（清水和弘君） 皆さん、改めて、こんにちは。

本日も皆様方に慎重審査をお願いいたしまして、簡単ですけれども、私の挨拶に代えさせていただきます。

ただいまの出席委員は8名です。定足数に達しておりますので、これより厚生文教常任委員会を開会します。

本日は傍聴を許可しておりますので、ご承知おきください。

○委員長（清水和弘君） これより次第3、内容に入ります。

初めに、次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた基礎調査の実施について、担当より説明をお願いいたします。

藤原長寿推進課長。

○長寿推進課長（藤原布美君） お疲れさまでございます。

長寿推進課より次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた基礎調査の実施についてご説明させていただきます。よろしく願いいたします。

資料の3ページをお願いします。

1、調査の目的ですが、令和9年度から11年度までの3年間を計画期間とする甲斐市第11次高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画につきましては、介護保険法第117条の規定により、市は被保険者の心身の状況、その置かれている環境、その他の事情を把握した上で、これらの事情を勘案して事業計画を作成するよう努めることと定められております。

これに伴い、市では令和8年度に計画を策定するための基礎資料として、今年度在宅介護実態調査と介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を行うものであります。

次に、2、調査の内容ですが、(1)在宅介護実態調査は、高齢者の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するためのものであり、(2)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで地域の抱える課題やニーズを把握し地域診断に資するもの、また、介護予防・日常生活支援総合事業の評価に活用するものであります。

次に、3、調査の方法についてご説明いたします。

初めに、(1)在宅介護実態調査ですが、調査対象者は、在宅介護を受けている要介護認定者とその介護者900人であります。調査対象外となるのは、医療機関へ入院している者、また特別養護老人ホームやグループホーム等の施設に入所または入居している者となります。

調査方法は、郵送調査を700人の方に、また、認定調査員による聞き取り調査を200人の方に実施する予定となっております。

次に、(2)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査ですが、調査対象者は、要介護1から5以外の高齢者1,800人であります。調査対象外となるのは、要支援1、2の者で、在宅介護実態調査と重複する者になります。

調査方法は、抽出した1,800人の方に郵送調査を実施する予定となっております。調査予定期間は、どちらも来月、11月から年明け1月までを予定しております。

4ページをお願いします。

調査表の概要ですが、初めに、(1)の在宅介護実態調査からご説明します。

4ページの表の2段目、調査内容をご覧ください。

まず、基本調査項目ですが、厚生労働省が示す必ず調査を行う項目で、表にあります①世帯累計から⑥介護者の就労状況などになります。

次の段のオプション項目は、国の基本調査項目を補完する調査項目で、地域の状況や調査目的等に応じて追加するもので、本市では、勤め先において仕事と介護の両立に効果があると思う支援などの項目を追加します。

次の段の甲斐市独自の調査項目は、市が独自に設定する調査項目で、①介護サービスの満足度から④認知症の方の介護における課題の把握と必要な支援についてなどの項目を調査します。

調査項目数は、基本調査項目、オプション項目、市の独自項目合わせて28問程度であります。

次に、(2)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査ですが、必須項目は、厚生労働省が示す

必ず調査を行う項目で、①の家族や生活状況についてから、⑧認知症の相談窓口の認知度などです。

オプション項目は、フレイル状況に関することや、現在の就労状態などの項目を追加し、市の独自項目は、①の「介護が必要になったときどこで介護を受けたいか」から、⑦高齢者の生活課題と必要な支援などの項目を調査します。

調査項目は、必須項目、オプション項目、市の独自項目を合わせて62問程度になります。

最後に、今回のアンケート調査の結果につきましては、改めて厚生文教常任委員会でご報告をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（清水和弘君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ここで、委員並びに職員各位に申し上げます。

質問は一問一答とし、また質問、答弁は簡潔明瞭にさせていただきますようお願い申し上げます。

それでは、質疑等がありましたら、よろしくお願いいたします。

質疑はありませんか。

[発言する者なし]

○委員長（清水和弘君） なければ、委員の質疑を終了します。

以上で、次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた基礎調査の実施についてを終わります。

ここで暫時休憩し、職員が退出いたします。

休憩 午後 1時34分

再開 午後 1時35分

○委員長（清水和弘君） 会議を再開します。

次に、次第の4、その他に入ります。

令和8年度当初予算への要望についてを行います。

令和8年度当初予算への要望については、各常任委員会で協議を行い、1事業を決算審査

特別委員会へ提出することになっております。

事前に6名の委員から要望事項の提出がありましたので、内容の協議を行い、本常任委員会からの要望事項を決めたいと思います。

よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○委員長（清水和弘君） それでは、そのようにいたします。

それでは、順次委員からの説明を受け、質疑や協議を行った後に、改めてどの提案を推薦するか各委員のご意見を伺いたいと思います。

初めに、保坂副委員長、説明をお願いいたします。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 私が要望したのは、4款1項3目の食生活改善事業ということで、食生活の改善という形で今も活動行われているんですけども、これから先まだまだ食生活で高齢者医療費抑えられるようなものがあるのかなと思います。どんどん医療費というのは、多分これから先、あと何年かは増えていくと思われま。予算が限定される中で、毎年毎年増えていくというふうな形になると思いますので、この辺を少しでも抑えるために、もちろん体のほうの健康のためのそういうものもありますけれども、基本的には食生活からもっともっと改善をしていただいて、少しでも医療費を抑えられるような形で今回は提案させていただきました。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、山本委員、説明をお願いします。

○委員（山本 英君） 10款1項2目休日部活動地域移行モデル事業についてですが、ここに書いてあるとおり、文部科学省が2023年から25年に改革推進期間として決めていて、今度来年からは実行期間に入るんですよ。

実行期間に入るに当たって、中学校の学校の先生たちの長時間労働の是正や、あと子供たちが人口が減っていく中で、その地域で部活動ができなくなってきてしまう、そういったことが起こらないように、いろんな団体が動いて、休日の部活動の地域移行モデルをつくっているんですが、そこに対して、そういったことのクラブの活動の設立運営や団体やスタッフの確保、育成にぜひ支援をしていくために必要経費を計上していただきたい、そんな形で書かせていただきました。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、依田委員、説明をお願いします。

依田委員。

○委員（依田那津希君） 私のほうの当初予算の要望書ですが、3款民生費、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費、事業名が児童福祉諸費になります。事業内容が、公立保育園におけるICT使用料です。

本市において、令和4年度より保育園ICT推進事業が始まっています。現在は1園当たりタブレット10台、スマートフォン型端末4台が配備されておりますが、業務上において一定の効果は見られるものの、職員数に対しての割当て端末台数は不足している状況です。端末の使用に待ち時間が生じており、時間外勤務や休日などに記録を行うことも多々あります。保育園においては、会計年度任用職員や短時間職員など、勤務時間に制約のある方も多く、記録待ちをせざるを得ない職員が偏る傾向にあります。

第3回定例会においての答弁に、令和8年度に各園に2台ずつの端末追加の予定とされておりますが、現状十分な数とは言えません。ICT化は業務の軽減、効率化を図ること、また、何より子供たちと触れ合う時間の確保が目的だと考えます。

迅速な情報提供により保護者との連携の強化、信頼感の向上にもつながるかと思っておりますので、令和8年度予算においては、職員の負担軽減、保育の質向上、園全体の業務効率化のためにも1人1台端末に近づけるべく重点的な追加配備を図られるように要望いたします。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、加藤委員、お願いします。

加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） 私のほうは、こちらに書いてありますエンディング・プラン・サポートということで、内容的には、頼れる身寄りのない独居老人の支援ということで、これも以前議会質問でもさせていただきましたけれども、今後は全世帯のうち5軒に1軒は単身の高齢者世帯になると見込まれているということです。あと、生涯独身率の増加とか、親族関係の希薄化により、頼れる身寄りのない高齢者も増えるということが見込まれております。

そのリスクとしては、入院施設とかそういった施設に入るときの保証人になってくれる人がいないとか、あと、緊急入院したりとか、あと孤独死した場合のそういった親族探し、これは行政側の負担ですけれども、それで、また葬儀とかそういったものも結局はその方が亡くなった市町村で見なきゃいけない。先日、決算のときに聞きましたら、やっぱり去年度は3件もあったということで、こういったことが今後またどんどん増えるというリスクもある

と思うので、そういったのを、もしそういった場合に対応できるようなために、事前にそういったその方の情報を市のほうで登録管理するという事業を立ち上げていただきたいということで、この内容を要望いたしました。

以上です。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、谷口委員。

○委員（谷口和男君） 私は、10款教育費、2項学校給食費なんですけれども、学校給食費は、義務教育が無償と言われながら、学校給食法で食材費のみ保護者負担するということがずっと行われてきました。

義務教育費は無償と言いながら、最近の状況では、副教材費ですとか、あるいは、それは個人か分からないですけれども、塾に行くですとか、そういう形で義務教育に係る費用が非常に増大しているんですよね。そういう中で、甲斐市では2020年、保坂市長が半年間無償にするということでおっしゃられて、山梨県の学校給食費無償化の先例をつくられたと思うんですけれども、昨今の物価上昇指数が今後発表されたんですよ。2025年の物価上昇指数は2020年と比べて25%、非常に、米価高騰等の影響があるんでしょうけれども、上がっておりますので、多子世帯だけじゃなしに全ての世帯で物価高騰が影響を与えているかと思っておりますので、国のほうも来年4月から小学校については無償化を検討するとは言っていますけれども、それすれば、国のほうから小学校の無償化が出るんで、中学校も含めてぜひ無償化をしてほしいということで、金額は高額になりますけど、要望したいと思います。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、滝川委員、説明をお願いいたします。

○委員（滝川美幸君） 私の要望書を読み上げさせていただきます。

3款民生費、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費、事業名、10児童福祉諸費、事業内容、公立保育園ICT使用料です。

本市では、令和4年度より保育園ICT事業に取り組んでおります。職員の働き方改革の一環として、少しずつではありますが成果を上げているということは感じております。

しかしながら、現状では、1園に配備されている台数が不足しており、複数の職員が端末を使用するための時間待ちを余儀なくされる。また、時間外や休日に記録を行うという状況が続いているようです。本来ICTの導入により保育士が子供と向き合う時間を確保し、きめ細やかな幼児教育の実現のための事業と認識しているところではありますが、既に4年が経

過しています。令和8年度に各園2台ずつ追加予定とのことですが、このような計画では事業成果を上げるのに大変な時間がかかるのではないかと危惧しているところでもあります。現場の声を受け止め、人材の確保、保育の質の向上のため、迅速に1人1台端末の実現が必要と感じています。

つきましては、令和8年度予算において、タブレットやパソコンの配備にさらなる予算増を強く要望いたします。

以上です。

○委員長（清水和弘君） 提案は以上であります。

要望書の内容について質疑等がありましたら、お願いいたします。

質疑ございませんか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水和弘君） なければ、質疑を終了します。

それでは、提案者の説明や質疑などを踏まえ、厚生文教常任委員会としての令和8年度当初予算への要望はどの提案をするか、各委員の意見を順次確認いたしたいと思います。よろしいでしょうか。

初めに、保坂副委員長、お願いします。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 私も一応提案はしましたですけども、細かいところだったんで、もっともっと力を入れるべきところがあるんじゃないかということで、依田委員と滝川委員の言われたようなICT化、この推進事業のほうに1票入れたいと思います。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、山本委員。

○委員（山本 英君） 僕も提案はさせていただいたんですが、ちょっと違いますけれども、先生たちの働き方の改革ということで依田委員と滝川委員の意見に賛成させていただきます。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。ありがとうございます。

次に、依田委員。

○委員（依田那津希君） 自分自身で出した案でお願いしたいです。

滝川委員と重なる部分が多いかと思いますが、お願いいたします。

○委員長（清水和弘君） はい、分かりました。

加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） どれがいいかと言えば、もちろん自分が出したやつが一番いいんですけども、依田委員と滝川委員の内容が全く同じだと思うんで、そちらでいいと思います。

○委員長（清水和弘君） よろしいですか。

それでは、谷口委員。

○委員（谷口和男君） ICTとかかなり影響される対象が少ないかと思しますので、私のほうは、もちろんそれは大事ですけども、学校給食費無償化、これのほうを自分ですけども、推薦したいと思います。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。

次に、滝川委員。

○委員（滝川美幸君） 皆様のそれぞれのご意見、非常に同感するところが多くて、それぞれ大切な予算要望ということは重々に承知しておりますが、今回大切な幼児教育の中の指導者の働く環境の確保のために、よい保育をしていただくために、ぜひこの要望書を通していただくようお願いいたします。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。

次に、金丸委員。

○委員（金丸 寛君） 今回私は要望書を提出はしておりません。そんな立場から、なぜ要望しなかったかというのは、例年決算特別委員会が終了して、このように次年度への予算要望出しております。

しかし、それがなかなか次年度の予算の中で明確化といいますか、顕在化していないような気がします。どの部門の要望にしてもなかなか見えてこないということで、今回要望してもしようがないかなという、若干諦めの境地にもなっています。

これを、じゃ、どうしたらいいのかなというところ、要望書を出して、予算が組み立てられて、そこに委員の皆さんから要望された項目はここに入っています、このぐらいの金額になりますというような予算を審議するとき、もう少し詳しい当局の説明、これがないと、なかなかやりっぱなしというような傾向がずっと続いているような気がしてなりません。

したがって、私は今出た6人の方の要望、これに対しての見解は、保育園の端末の増加というのも、これ、予算化するにはかなり手っ取り早いといいますか、緊急を要する案件だと思います。

そして、もう一つは、学校給食、これは私も一般質問等で盛んに言っているんですが、なかなか甲斐市の場合は実現化しない。しかも、予算でふるさと納税等たくさん頂いているに

もかかわらず、そこに回してもらえないというような実態があります。

だから、こういった実のある予算化といいますか、委員の皆さんからこうやって要望が出ているものに対して、やはりその見える化をお願いしながら、今回どうしても私も学校給食、保育園の件もすごく大事だと思いますけれども、学校給食をあえて何らかの形で無償化の方向に持っていく。国がやるからじゃなくて、やっぱり率先して地方からできる財源がないわけじゃない、予算化できるということです。

○委員長（清水和弘君） 金丸委員、よろしいですか。

○委員（金丸 寛君） 以上です。

○委員長（清水和弘君） 以上ですか。

では、これは金丸委員に話しさせていただきますけれども、これは意見を言う場所でもないし、要望書を出す場所でもないし、皆さん方が事前に出したアンケートに対して、要望書に対してそれぞれが提案をしてくれて、要望を出してくれたものについて、今の段階は皆さん方のご意見を、どの方を推薦するか、あるいは自分が出したものを要望にするのかというお答えをこの場で聞いております。

ですから、今、金丸委員がお話ししていただいたものは、この場でなくて、場が違いますので、その機会が十分にあったはずですから、その場でまた今後もお話してください。

以上です。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水和弘君） ここで、意見の集約をしますので、暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時53分

再開 午後 1時53分

○委員長（清水和弘君） 会議を再開いたします。

意見の集約をしたいと思います。

現在、滝川委員、依田委員のICTの要望に対する意見が多いようですが、いかがいたしますか。

それでは、お諮りいたします。本委員会からの要望事項は、ICTの要望についてとする

ことにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水和弘君） それでは、そのように決定いたします。

なお、提出する文面は正副委員長にご一任を願います。

以上で令和8年度当初予算の要望についてを終了いたします。

次に、各種団体との意見交換会についてを行います。

意見交換会につきましては、視察研修と隔年で行うことになっておりますので、今年度は意見交換会を行いたいと思います。

なお、第3回定例会中の委員会で通知にて相手方、テーマについて検討をお願いいたしますので、各委員の意見を求め、決定したいと思います。

それでは、保坂副委員長からお願いいたします。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 私が行いたいのは、社会福祉協議会をお願いしたいと思います。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、依田委員。

○委員（依田那津希君） 私も初めてで、どの関係機関の方が来ていただいても大変勉強になると思っているんですけども、7番の自殺防止対策協議会、なかなかスポットライトが当たりづらい問題だと思うので、多様化している問題などを聞かせていただければいいなと思います。

以上です。

○委員長（清水和弘君） 次に、加藤委員、お願いします。

加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） 私は、この間頂いた一覧表の中の12番の地域包括支援センター運営協議会委員とやってみたいと思います。

○委員長（清水和弘君） 次に、谷口委員。

○委員（谷口和男君） 自殺防止、それは非常にいいですけども、私、不登校がコロナ禍で非常に増加しているということを知ったものですから、民間で不登校のやっている団体ですか、あるいはオークルームとか主催している方とか結構いらっしゃると思うので、不登校対策やっている団体さんを、1回聞いてみたいなど。このどこに当てはまるか分かりづらいんですけども、教育部か子育て支援課になるかと思うんですが、そういうふうを考えて

いるんですが。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。

次に、滝川委員、お願いします。

○委員（滝川美幸君） いろいろ迷ってはいるんですけども、6番の甲斐市地域自立支援協議会、この方たちとお話を伺ってみたいかなと思うところもあります。

○委員長（清水和弘君） 次に、金丸委員。

○委員（金丸 寛君） 19番、保護司の方とお話を伺ってみたいと思います。

○委員長（清水和弘君） 山本委員、どうですか。

○委員（山本 英君） 一覧表の25番、給食運営委員会、こちらに、今給食の話も出たので、聞いてみたいこともいろいろあるので、お願いしたいと思います。

○委員長（清水和弘君） これで全員になりましたね。ありがとうございました。

それでは、各委員より団体とテーマ出ましたが、内容につきまして委員より質疑等がありましたら、お願いいたします。

谷口委員。

○委員（谷口和男君） 別に質疑じゃないんですけども、私、不登校とかいろいろやっただけでも、やっぱり自殺というのに関わっていることが多いかと思うので、できたたら子育て支援になるんですか、自殺防止の関係で賛同したいとは思いますが。

○委員長（清水和弘君） そのほかございますか。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 私も幾つか希望していて、実は加藤さんが言われたように地域包括センター、これの件と、あと、今、山本委員が言われた給食、この辺の両方、いいかなというふうな思いはあったんですけども、地域包括センター協議委員会というのは、結局市のほうの人も関わりながらやっているというのを見たら、そういう形があったんで、だったら違う団体がいいかなと思いました。

僕自身は、本当はこの地域包括センターの件が一番なんですけれども、でも、実際この表を見ると、市の職員がいたりとか、そういうふうなのがありましたんで、そうじゃないほうがいいかなと思ひまして、今回はこれを選ばなかったというところが一つありますので、その辺はどうかというのが一つあるんですけども。

ですから、全体を通して皆さん細かいところでいろいろやっておりますけれども、もっともっと、細かいから駄目だというわけじゃないんですけども、全体が見られるほうがいい

かなという形で社協と考えておりました。

○委員長（清水和弘君） そのほか何か質疑ございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水和弘君） 質疑がないようですから、それぞれのご意見に従って、集約ができる方向に持っていきたいと皆さん方のご意見をお伺いいたします。

まず最初に、保坂副委員長からどうぞ。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 私は全体見られるということで、社会福祉協議会を推したいと思えます。お願いします。

○委員長（清水和弘君） ありがとうございます。

次に、山本委員。

山本委員。

○委員（山本 英君） 給食センターというところを、その実態で今結構雨漏りがしているとか、そういったことも聞きたかったんですが、社協のことでも聞きたいこともあるので、保坂委員のところと一緒に社協のことをお願いします。

○委員長（清水和弘君） 次に、依田委員。

○委員（依田那津希君） 私も先ほど自殺防止のほうでお願いしたんですけども、まず、大まかないろいろなことを聞かせていただきたい部分もあるので、社会福祉協議会さんでお願いします。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。

次に、加藤委員。

○委員（加藤敬徳君） 私も社協という、これは私の話がしたい包括センターも含まれているところなんで、社協で結構です。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。ありがとうございます。

谷口委員。

○委員（谷口和男君） 私も社協での話は聞きたいんですけども、社協のトップの話とかいうよりも現場でやっているような人たちも出て来ていただけるのであれば、社協の話も聞きたいなというところで。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。ありがとうございます。

滝川委員。

○委員（滝川美幸君） 意見が多いということで、社協でいいとは思いますが、私自身としては、社協は今まで何回かお話を聞いていて、社協というのは非常に中が複雑にたくさん分野が分かれているということで、非常に聞くテーマとして非常に難しい、こちらがしっかりとどういうテーマで聞くかというところがないと難しい団体ではあるなということを感じていますがけれども、新しい方たちが社協の方とお話を聞きたいということでよろしいと思います。

○委員長（清水和弘君） そうですね。

次、金丸委員。

○委員（金丸 寛君） 皆さん、社協、社協とおっしゃっていますけれども、大筋それで私もいいかと思えますけれども、実は保護司を私出したんですけれども、全く保護司というのが高齢化されていて、かなり保護司になっていただける方も見つかりにくいという状況の中で、更生を心がけている皆さんの相談相手と、報告相手ということは聞いているんですが、どのようなご苦勞があったりとか、更生の過程と申しますか、そういったもの、私のところ、関係しているのは、保護司の範疇とは若干ずれるんですが、薬物とかギャンブルとか、そういった方の更生施設を運営している方との交流がありますけれども、直接交流がありますからある程度過程は分かるんですが、できたら毛色の違ったと申しますか、あまり日の目が当たらないところの保護司さんというところの方とお話しができればありがたいかなと思っています。

大筋は社協のところでは同意いたします。

以上です。

○委員長（清水和弘君） よろしいでしょうか。

ここで、暫時休憩をいたします。

休憩 午後 2時05分

再開 午後 2時06分

○委員長（清水和弘君） 会議を再開いたします。

一応社協ということですが、基本的に皆さん方、今ご意見がそれぞれありましたけれども、社協の中で、じゃ、テーマはどういうふうにするんだというところの絞り込みをお願いできればと思います。

では、先ほどの順序に従って、テーマについて、保坂副委員長、お願いできますか。

保坂副委員長。

○委員（保坂 康君） 僕のほう、自分の関係もあるんですけども、社協と言えばいろんなもので福祉関係の形ですね、市の方から一任されて活動をされているということで、先ほど滝川委員の言われたように、本当に多岐にわたっていろいろやられているんですけども、どれを絞れという形で言われてもちょっと厳しいかなとか思うんですけども、取りあえず僕らはこの懇親会じゃないんですけども、今まで社協とやったことない、経験がないので、今回選ばせていただいたんですけども、内容については、ここで今、これとこれとこれとというような、なかなか今浮かばないんですけども、全体的なものは社協という形でしか今捉えることができないんですけども、その中でいろんな活動についてももう少し検討してやらないと、今のこの段階でこれとこれとこれについてというのはちょっと厳しいかな、大変申し訳ないですけども。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。

それでは、滝川委員、よろしいでしょうか、ご意見を。テーマについて。

○委員（滝川美幸君） 今、私自身が全然思っていなかったので、社会福祉協議会に対してどういうテーマを投げかけるかというのは、ちょっと思い浮かばない。

○委員長（清水和弘君） よろしいですか。

○委員（滝川美幸君） 例えば食料の支援をしているところもありますね。前に問題になったのは、その社会福祉関係の中で担当が市から委託されて食料支援をしている中で、それが十分に市の中で行き渡っているかどうかという問題があったことがあります。

そのときにお話を伺いに行ったこともあって、そのときに問題だなと思ったのは、社会福祉協議会では市民のことを十分把握しているという中で、NPOの活動の中の方たちは、非常に不足しているという、その相違があったことがありました。そのことで非常に何回か伺ったりして、お話も聞いて、そういうところの市から委託されている事業を社会福祉協議会がしている中で、全てが市民の行き渡らない方たちにとって十分であるかというような問題になってしまうんです、私が考えている。

でも、いろんなボランティア団体もたくさんありますから、社会福祉協議会の中に。そういう意味で、もう少しこの中で社会福祉協議会の組織というものを知らないで、どこのどなたに伺うのか、もちろん社会福祉協議会のトップに行くのはいつも退職された職員の方ですので、そういう意味で、そういう方たちに来ていただくのか、その辺、もう少し私自身がよ

く分かっていないので、申し訳ないです。今の時点ではそんな感じです。

○委員長（清水和弘君） 全体像として社会福祉協議会の内容がよく分からない。特に、私個人でいると、相談を受ける中で、包括支援センターはどういう活動をしているのかというところで、皆さん方がいろいろご意見を求めるところが多いんですよね、その辺でちょっと。依田委員、どんな形でテーマを。

○委員（依田那津希君） 今、委員長がおっしゃったとおり、私自身も社会福祉協議会さんのいろいろなことについてまだ分かっていない部分もあって、子ども食堂さんに見学に行かせていただいたりもあるんですけども、こういった事業をしているよというのが大まかに分からないと、聞かれたときに答えられないというのもあるので、そういったところを聞けたらうれしいなと思います。

○委員長（清水和弘君） 谷口委員。

○委員（谷口和男君） 私は、フードパントリー、私もやっているんですけども、ひとり親支援「にじいろのわ」というところでやっていて、それで、社協にも食料支援とか集まっているんだったら、ちょっと支援してほしいとかいうこと言っているんですけども、社協の批判じゃないですけども、なかなか自分のところで配るので手いっぱいということで。

今度結局フードバンクが手を差し伸べてくれたんですね、3キロぐらいの米を何十袋か用意しますよというような形で。ただ、フードバンクと社協との関係がちょっと疑問なものですから、その辺のところは入れてほしいんですよね、食料支援とか、そういう形の。

ほかにも聞きたいことあるんで、包括支援とかそれもお願ひしたいとは思っています。

○委員長（清水和弘君） 山本委員。

○委員（山本 英君） 今、皆さんが言ったように、僕も社協さんとかの甲斐市としてどういったつながりがあるのかも、まだ入ったばかりでよく分からないところがあります。実際どういう活動をしている、赤い羽根の一つもそうかもしれないんですが、こういったものに対する寄附、僕たちもあれをしているんですけども、実際そういったものがどこでどう使われているのかというの、僕たちが調べないからというのもあるかもしれませんが、社協さんに入っているとは思いますが、そういったところの甲斐市と社協さんとのつながりというのがどういったつながりがあるのか分かりたいので、全体的な、どこと言われてしまうと、僕も本当に、こう見てもどこが社協さんかなんて思ってしまうところもあるので、全体的なつながりの仕組みだったり、そういったことが分かるようにしてもらえると、すごいありがたいと思います。

○委員長（清水和弘君） 次に、金丸委員。

○委員（金丸 寛君） 私の場合も漠然としていて、社協自体のどんなことをやっているかというところ、お弁当配付とか、そういった実際にやっている方を知っているんですが、非常に狭い知識しか僕らは持っていないというのが実態だと思うんですよ。したがって、社協はこうだよという説明ができる方においでいただいて、いろいろ細かいことを含めてお聞きしたらいいんじゃないかな、私はそのように思っていますので、手配のほうをよろしく願います。

以上です。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。

どうぞ。

○委員（加藤敬徳君） 私は、先ほど申し上げた地域包括支援というところをテーマにその業務内容ですとか、あと、多分、市のほうからいろんな業務を委託されているという部分で、例えば包括センターの中の人員で対応できるのかとか、現場の実際にやっている中の声とか、先ほど予算要望のほうでも申し上げた、いわゆる頼れる身寄りのない独居老人とかそういった人たちに対しての支援を今後どうしていくのかとか、そういった内容でお話を伺いたいなと思っております。

以上です。

○委員長（清水和弘君） 分かりました。ありがとうございます。

皆さん方のご意見、お伺いいたしました。

社会福祉協議会、それから、テーマについては皆さん方からいろいろなご意見がございました。これについては、皆さん方なかなかまだ内容が分からないということなんですけれども、多分社会福祉協議会の中で質問を受ければ、それぞれの方のお聞きしたいこともその中から引き出せる、そういうふうに思います。その意味で、テーマについては、一応私どもと事務局にご一任いただくことでよろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水和弘君） よろしければ、その方向で進めさせていただきます。

〔「委員長」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水和弘君） 滝川委員。

○委員（滝川美幸君） 一任するのは構わないんですが、ただ、社会福祉協議会に対して、事務局と委員長でどのようなテーマを投げかけるかということだけは教えていただけるんです

か。

○委員長（清水和弘君）　そうですね、一応事務局にらせていただいて、そのテーマについては、皆さん方に分かるようにします。

先ほどの皆さん方がそれぞれ話をなされたことは、それぞれの中でできるだけ反映できるような形を取りたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

○委員（滝川美幸君）　はい。

○委員長（清水和弘君）　そのほかにございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水和弘君）　なければ、日程等の調整につきましては、私とまた事務局にご一任をお願いいたします。

以上で各種団体との意見交換会についてを終わります。

次に、委員より常任委員会関係でその他がありましたら、お願いいたします。

ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水和弘君）　ないようですので、事務局、何かございます。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水和弘君）　ないようですので、以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、厚生文教常任委員会を閉会します。

ご苦労さまでした。

閉会　午後　２時１７分